

オニバス

分類：天然記念物（植物）

町指定文化財：平成7年9月28日指定

種子島宇宙センター内の水源地に生息しています。学名は *Euryale ferox*、スイレン科の一年生浮葉水草で、夏頃に薄紫の小さな花を咲かせます。原産地は東南アジアで、その葉や茎に鋭いトゲがあることから鬼蓮おにばすの名がついたといわれています。

本州、四国、九州の湖沼や河川に生息していましたが、環境の悪化や埋め立てなどで自生地は急速に減少し、環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

現在、南種子町が日本の南限となっています。町内ではほかに大浦川の古川でも生息しています。過去には宝満の池でも確認されていたようです。

水源地には毎年数百羽のマガモが越冬しており、その越冬時期とオニバスの結実時期がほぼ同じであることから、マガモがオニバスの種子を運んできた可能性が指摘されています。



オニバス